

# 大分県玖珠町の事例

愛媛県健康対策課 櫃本真一

自治体の概要	人口 19,659 人 平成7年度にエンゼルプランを策定,その後,障害者プランや総合的な保健計画の策定など,住民参加のもとで,ヘルスプロモーションの実践をめざしたプランの策定とその推進を行っている	
一 押 し の 事 業	事業名	思春期保健セミナー
	事業の目的	関係者への知識及び情報提供
	対象者	小中学校PTA
	事業の概要	事前事後のアンケートにより,知識・行動・情報等に関する実態調査を行った上で講話を行い,その後の反応や理解度等を把握する。内容については,思春期の心身の発達について,生活習慣病について,酒・煙草,麻薬,S TD(エイズ含む),妊娠と出産・避妊(とくに男の性の成長の特徴)を中心に講話を実施。
	事業の開始時期	平成8年度より開始
	事業の実施に至ったきっかけ(事業の開始の背景)	学校及び教育委員会において,児童健全育成および学校PTAの中で,思春期における性についての問題がクローズアップされ始めていた。 平成6年度より,玖珠保健所事業として,高校生の母子保健の導入・子育てのための「ヤングヘルスセミナー」を実施していたが,高校側より性に関する専門的な教育を実施してほしいという要望になってきた。 児童・生徒の教育は,学校教育の一環でカリキュラム編成されるが,この年代の親は,きちんとした性教育を受けていない現状があり,児童生徒の不安や知識を補うことができないでいた。 平成8年度策定の玖珠町エンゼルプラン(母子保健計画)によって,学校保健への取り組みとしての事業開始を図る必要があった。これらの状況から,既存の事業と新規事業を一体化し,関係者の相互の理解と連携を図る必要があった。
	実施についての職場内部の合意形成	庁内では,保健福祉課と教育委員会との協議
	予算,人的体制 補助金の有無と種類	町の単独予算 医師・保健婦・関係職員・学校職員・PTA役員
	対象者の把握及び選定方法(ルーチンワークとの関連)	PTAとの協議により,役員と一般の参加とした(ルーチンワークとの関連性はなく,独自の事業)
	関係機関への協力要請(担当者,手段,協力要請の手順)	町・保健福祉課と保健所の協議 PTAとの協議(役員・校長・教頭・養護教諭) 関係者による具体的な事前準備・実際・事後についての協議(医師・保健婦等)
事業の実施要領づくりに 参画した人	町と保健所保健婦・係職員	

	実施できた促進要因	町の保健福祉課が教育委員会や保健所といつも情報交換できる状況にあった。 思春期における問題（課題）を、現状分析・情報交換によって学校・PTA行政が共有してきた。 町と保健所がこれまでも事業の連携をスムーズにやっていた。 母子保健計画の策定により、ポイントを思春期支援におくことが可能であった。 性に関する専門医師との連携が可能であった。
	阻害要因とその克服	学校への導入はむずかしいと感じてたが、実情を互いに提示し合うことで最も強力な連携機関となり得た
	サービスの受け手の感想	学校の中での会話が、オープンになり、自然と性に関する相談が増えている。また、教諭自身もいっしょに教育を受け、改めて性の現状を知った。 学生の間では、アンケートより、自分に責任を持つということや、相手と共に性を考えるということを改めて考え始めている様子である。 PTAの中では、特に男の性についての知識や性感染症等の現状を知ることができたとの感想が毎回だされている。
	担当者の感想	実際のクラスでの教育は、年齢的にも高校生に近い世代の保健婦が担当したことによって、より身近に感じて教室での学習はとても有意義だった。 事前事後の準備・反省を関係者と共にしているので、学校やPTAにスムーズに入り込めた。
	取り組みについてのPR	協議を重ねる中で、それぞれができるPRをしていった。学校は学校で、PTAはPTAで、行政からは独自パンフ等で実施した。
	事業効果の客観的な評価指標	知識や情報収集に関するアンケートからは、事業前後、また、1年目と2年目の比較では結果がよくなっている。客観的な指標は、何で出せるのか摸索中だが、教育内容方法・相談する人・相談場所・妊娠及び中絶者数？などが挙げられる。
	反響や波及効果	
	今後の課題	
ルーチンワーク	各事業の目的をスタッフで確認しているか	各事業の目的をスタッフ間で確認するために、事前事後に、担当者からの説明をもとに、全員で協議することが慣習化されている
	モニタリングとして位置付けているか	ルーチンワークが単なるサービスの提供の場としてではなく、地域情報のモニタリングの手段として位置づけられている
	事業委託の有無	なし
	直営で実施するメリットを發揮できているか	ルーチンワークに振り回されず、他の市町村の独自事業や、他機関の実施している各種事業との連携が図られており、ルーチンワークが単独でやりっぱなしにされているようなことはない。 全体を通して、住民に身近な市町村において、各サービスが一元化されており、市町村がルーチンワークを担うメリットが發揮できている。
	ルーチンワークで対応しきれない対象者を把握しているか	保健所をはじめとして、学校、養護・福祉施設、医療機関、福祉事務所などと連携して、ルーチンワークでの対応の漏れを、カバーする対策がとられている

計画の進行管理	担当課, 担当係内における進行管理の状況	課内でも進行管理がしっかり行われている					
	進行管理組織の構成	ありきちんと機能している					
	進行管理組織に下部組織があるか	なし(今のところ, 予定はない)					
	関係機関の取り組みについての情報	進行管理の組織で, 各関係機関の取り組みについての報告がなされている。					
	評価指標についての論議が行われているか?	一部ではあるが, 対策の効果を判定する評価指標についても議論がされている。					
母子保健事業評価	評価指標の決定プロセス	策定委員会 検討委員会 議会といった順序を経て決定されている					
	評価指標は関係者により認知されているか	報告書を配布して直接説明する機会を持つなど, 周知徹底に力を入れている					
	評価のための情報収集	評価のために, ルーチンワーク等を通じてやアンケート調査により, 地域情報を収集している					
	評価結果を住民や関係者に還元しているか	評価結果については, 広報紙による情報提供や, 母子組織や子育てサークルといった直接関係の深い住民グループへの説明などにより還元している					
マンパワー	マンパワーの変化		H 7	H 8	H 9	H10	H11
		保健婦	5	5	6	6	6
		栄養士			1	1	1
	保健所との人事交流	なし					
自治体内の専門職の異動	1名の保健婦が介護保険係へ異動						
予算	予算の変化(印象)	健康診査や健康教育, 子育て支援等で, 出生数は減っているにも関わらず, 予算は増加した					
	予算増加の決め手	地域保健法施行をきっかけに, 町の主体性が強まったこと, 計画が, 既存事業の充実強化や新規事業の実施につながったことなどが, 予算増加の決め手となった					
住民の主体性	主体性が向上したか	計画策定により向上したと言うよりは, 従前から住民の健康づくりに関する主体的な活動が根付いている。					
	主体性向上を示す具体例	住民の主体性が, 当計画をより具体的かつ実現可能なものとした。					
	主体性を引き出すために有効だった取り組み例	住民の主体性を重視し, 維持発展させる手段として, 事業の一端を, 住民と必ず分担する。事業や活動が, 計画のどの目的に合致したものか, 互いに確認した上で展開する。活動の評価を住民自身が行う機会を設定し, その結果を次年度の事業に盛り込むようにする。					
計画を推進するうえでの困難	マンパワーのところで触れたように, ただでさえ介護保険対応のために保健婦が1名移動している状況であり, ハンディキャップ児の保育など福祉分野と連携した事業へのスタッフ増員が困難である。						
計画の見直し	抱負として: 具体的な評価指標のないものへの指標化について検討すること。 阻害要因として: 担当者の異動が, スタッフの意思統一に弊害となり, その調整に時間と手間がかかる。						
保健所への期待	立ち上げ事業(モデル)の推進: 「やってみて, やらせてみせて, ほめてやらねば, 市町村は動かじ?!」 先駆的な取り組みの導入への支援。 評価指標の提示。他市町村, 他県との比較評価。そのための情報提供。 エイズ・難病等, 専門的という分け方で保健所業務としてすみ分けされているジャンルについて, 情報提供や共同した取り組みを期待しており, 同じ町民である以上, 疾病による区分をできるだけしないような活動展開を考えている。						

## ・まとめ

### < 保健所と市町村の連携 >

- ・机上の役割分担はない。話し合いにより、住民により良いサービスを提供することをコンセンサスに、互いの役割を認識し、協働して事業を実施している。
- ・保健所は市町村の信頼を得るために、支所化し人員が減った状況の中で、市町村の要望に応えることを第一義に置いている姿勢がうかがえる。
- ・しばしば互いが会う機会を確保しており、事業の進め方の方法論だけでなく、その事業の位置づけや目的についての確認を怠ることはない。
- ・当町の概要説明の過程で、母子保健サービスの体系を、机の上に広げられた白紙に、保健所と市町村のスタッフが、互いの領分と関係なく協力して、わきあいあいとしかも速やかに埋めていく光景は、互いの関係を端的に表していた。

### < 住民主役 >

- ・住民の自主的な組織が根付いており、住民の役割としての認識が個々にある。
- ・住民の声・ニーズを施策化に反映させたいという行政の意図が、住民にも理解できている。
- ・行政からの押しつけを極力避け、地域課題について、住民とのコンセンサスを図り、住民自身が主体的に解決する方法を導くように促している。
- ・保健婦等はもちろん、住民との接点をできるだけ多く持っているが、管理職もできるだけ住民の集まる場に出かけていくよう心がけている。(保健婦がうまくリードしているようだ)
- ・住民ニーズを、上司や理事者に、住民の生の声を通じてつたえる場を日頃から設定している。
- ・常に、住民からの声を地域保健活動の後ろ盾にしている。
- ・日頃から、住民のニーズに伴って活動していることを、住民にも上司にも、アピールしている。

### < 母子保健計画のねらい >

- ・計画策定によるメリットとして、一般的には、各事業のねらいや位置づけなどについて、個々やスタッフ間でコンセンサスが得られたために、ぼやけていた足下や活動のメリハリが見えたことがあげられているが、当町に置いては、すでにそれらはクリアされており、行政の人員確保(保健婦等)や、新しい事業の予算確保を実現させるための作戦の一環として、計画を活用する意志が明らかだった。
- ・母子保健分野に限らず、他の計画についても同様であり、これまで国からの指示の有無に関わらず、自ら必要性に気づき計画策定に取り組んできている。(保健所の関わりも大きいと思う)
- ・全体的な保健行政の基盤・考え方がしっかりしているために、計画策定に振り回されることが無く、また策定そのものが目的化されておらず、策定プロセスの重視するとともに、使う計画として位置づけられている。

### < 研修・人材育成 >

- ・ベテランと若手の保健婦等の関係が良好である。
- ・ベテランから若手への期待が全面に出ており、若手もそれに応えられるよう、ベテランからのアドバイスを吸収しようとする姿勢がうかがえる。
- ・他の地域と比較して、当町が優れている点を指摘しても、当たり前のこととして特別意識していない様子だった。
- ・学問として進め方を学習しているのではなく、日常の取り組みの中で体得している感がある。日常活動を通して、スタッフ間で、互いに人材育成の支援を行っているように思える。